

日経平均株価

4万8625円88銭

▼1198円06銭(前日比)

TOPIX

3297.73

▼1.84(前日比)

# 株式市場新聞

www.marketpress.jp

2025

11/24

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



## 大規模セールで消費関連

### ブラックフライデーから年末商戦



#### ブラックフライデーから年末商戦が始まる

年末商戦の幕開けを定着。多くの買い物客が殺到して小売店が繁盛することで知られ、1年で最も売り上げを見込める日とされ、

米国では11月28日は早朝や深夜0時から開店する店も多く、買い物客が殺到して小売店が繁盛することでも最も売り上げを見込める日とされ、

#### 家電量販店やゲームなど

喚起が期待される。

年末商戦の幕開けを定着。日本でも1月中旬頃からブラックフライデーを冠したセールを行う企業が増えており、年末商戦へ向けての大手企業が増えており、年間見込みの

年末商戦の幕開けを定着。日本でも1月中旬頃からブラックフライデーを冠したセールを行う企業が増えたり、年間見込みの

年末商戦の幕開けを定着。日本でも1月中旬頃からブラックフライデーを冠したセールを行う企業が増えたり、年間見込みの

米国で感謝祭(11月第4木曜日)の翌日に開催されるブラックフライデーを皮切りにクリスマス商戦が本格的にスタートし、消費の盛り上がりから株価も上昇しやすいアノマリーア・半導体銘柄ばかりに 관심が集中してきたが、大規模なセールを契機に純粋に消費関連に注目してもいいだろう。

#### 日経平均の日足チャート



marketpress

ゲームソフトはもとより玩具の販売増も期待されるバンダイナムコホールディングス(7832)も注目したい。ブラックフライデーを大々的に行う楽天グループ(4755)やグループでヤフーショップ(4755)やグローバルピーニングを展開するLINEヤフー(4689)、スマスマ商戦へ向けての期待されよう。加えてクリエイターズ(4267)も注目できよう。大手ではイオン(8267)も注目できよう。



## ユニチカ28%増益

ニチ力（3103）がストップ高まで買われた。11日11時に未定だつた26年3月期予想を開示、連結営業利益で前期比28・2%増の75億円を見込むこととが好感された。為替差益などが寄与す

最終損益で360億円の黒字から170億円の赤字（前期455億5400万円の黒字）へ下方修正した。連結子会社であるオランダ法人MSCN社のメタキシリジアミン製造設備が建設工事を一時中断。固定資産の回

## シャープ上方修正

SBG3日ぶり反落  
6%増)へ上方修正した。PC事業の上振れなどを反映した。

で前年同期比2・5倍の3兆6863億8200万円となつた。エヌビディア株を全株売却したこと、OpenAIの業績悪化リスクが懸念された。12月31日を基準日として1対4株式分割を発表したが反応薄。

**メルカリ営業益2・3倍**

フインテックグローバル（8789）が急伸。25年9月期決算は連結営業利益で前年の期比32・5%増の34億600万円となり、26年9月期も前期比23

4) 村上美晴会長が代表を務めるC o l o rを通じてM B Oを実施すると発表した。公開買付(T O B)価格1220円にサヤ寄せする動き。

超画計で与寄品

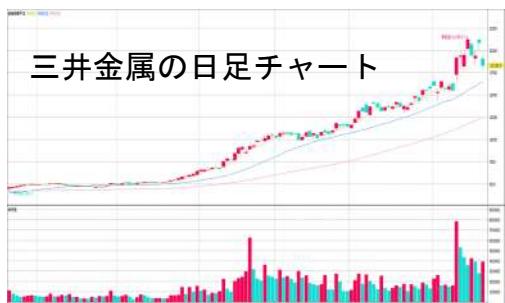
た。8～9月に実施した小型便の配達キヤンペーンやエンタメ・ホビー・カテゴリーの伸びも寄与した

## セントケアはMBO

TOWAがストップ高

## 11月第2週の動意銘柄

前週の東京市場は反落しました。日経平均は前の週から1750円下落しています。米エヌビディアの決算発表を前にリスク回避姿勢が強まり、前の週から19日まで4日続落。エヌビディアの決算は予想を上回り、時間外で株価が上昇しました。ただ、ヨン調整に伴い戻り売りになりました。デイア株が0円台まで戻り売りに押しつぶされ、調査結果が買付を実行する形で、20日にはポジショントリムが実現されました。一方で、ソフバンク指標採用の値動きは、日経平均は値の荒れで出遅れています。一方で、出遅れていた好業績株に買われ、



億円（前期比0・4%増）へ、営業利益で460億円から780億円（同4・4%増）へ大幅に上方修正、期末配当を95円から110円へ引き上げた。主要製品のキャリア付極（前年同期90円）

密（7718）がストップ高。同社は12日の取引終了後、米国のファンンド、タク・パートナーズ（TCP）グループが同社株を公開買い付け（TOB）すると発表した。TOB価格2210円にサヤ寄せする動き。買い付け期間は13日から12月25日まで、完全子会社化による非

## ▽テク赤字拡大

スター精はTOBでS高

公開化を目指す。

薄銅箔やA Iサーバー向け電解銅箔など  
の需要が堅調に推移  
金属価格の上昇と円安による収益改善と  
在庫要因の好転など  
が寄与した。

（同49・4%増）へ、純利益で427億円から520億8300万円へ大幅に上方修正、期末配当を60円から80円（前年同期50円）へ引き上げた。浮体式海洋石油ガス生産貯蔵積出設備（FPSO）の建設が順調、FPSOの稼働も総じて好調で金利収入の増加も踏まえた。

三井海洋ストップ高

# 個人投資向けIRセミナーin大阪



# 新田ゼラチン (4977) *Connect and Create*

2026年2月14日（土）参加費無料

## 株式評論家 高野恭壽氏の株式講演会

参加申し込みは「お問い合わせ」から！



主催：株式市場新聞社 場所：大阪産業創造館  
6階会議室（堺筋本町駅[出口1]徒歩3分  
13時開場、13時30分開演



週明け三越伊勢丹（8233）、高島屋（8236）やJ・フロントリテイリングス（3099）が堅調に推移し、新規事業や医療現場支援などの事業が好感された。新型コロナウイルスによるマイナス影響が縮小するなか、影減関係は、連携プロジェクトの支援事業やDX化支援など、現状は堅調に推移している。

日本への留学を慎重や安い。中国政府が自ら百貨店株が総じて中国訪日自粛（ツー・オーリティング）など、百貨店が自らの発表したことがポジティブ視された。

**Synsストップ高**

に検討することを巡り、かけたことを巡り、インバウンド関連売上上げの減少を懸念したり売りが広がった。

**リック（3003）**ストップ高。ヒューリックを割当増資による新株発行と併せ、残存部を取得、消却する新規事業の全額が順調に推移。

**DMM・X増額増配**

業績予想について、連結営業利益で18億円から21億円へ上方修正、期末一括配当を6円から7円へ引き上げた。業務受託が順調に推移。

## 百貨店は中国訪日自粛

### 11月第3週の動意銘柄

トッピング（2413）がストップ高。26年3月期の第2四半期累計（4～9月）決算で、連結営業利益は前年同期比24.2%増の359億9千万元となり、決算で影滅関係は、連携事業や医療現場支援などの事業が堅調に推移している。

**キオクシア55%減益**

週末14日、エムスリー（2851）がストップ高。26年3月期の第2四半期累計（4～9月）決算は、連結営業利益が前年同期比55.2%減の13000万円となつた。平均販売単価が下落や為替の悪影響で、利益は連続営業利益で前年同期比5.5%減の13000万円となつた。

**GMOペイ2割営業増益**

伊藤忠食品（9261）がストップ高。26年3月期の第2四半期累計（4～9月）決算は、連結営業利益が前年同期比55.2%減の13000万円となつた。

**日経平均、NASDAQに三羽鳥**

先週の東京株式市場は反落しました。日経平均は3週連続の陰線形成。酒田五法では「三羽鳥」という天井形成サインです。これはNASDAQ総合指数も同様であり、4月以降、7カ月続いた上昇相場が曲がり角を迎えた可能性が高まっています。特にAI半導体関連銘柄はチャート形状が崩れており、これらの調整が本格化するようなら、高市トレード前の10月初旬レベルまで下落するのではないかでしょうか。日経平均では4万5000円前後です。

一方で、一握りの銘柄に過度に資金が集中してきた反動で、今まで物色の範囲外に放置されてきた銘柄へのセクターローテーションが活発になるものと思われます。日経平均型からTOPIX型へと投資対象が広がることで、幅広い銘柄が物色の対象となりますので、押し目は積極的に仕込んでいきたい局面です。

## エムスリーがS高

伊藤忠食親子上場解消

### 転ばぬ先のテクニカル



日々勇太朗

(9857)

# 造船業界向けなど伸びる 26年3月期增收増益予想は不变

英和（9857）は工業用計測制御機器、環境計測・分析機器、測定・検査機器、産業機械の分野で、あらゆる産業のハイテク化に貢献する技術総合商社で、単に「物を売る商社」ではなく、「提案型セールスエンジニア企業」へと変貌している。

重点戦略である既存顧客への深耕開発と成長ビジネスへの注力を掲げ、デジタルトランスフォーメーション（DX）、グリーントランスフォーメーション（GX）、社会資本整備の3分野をテーマに、全国展開した営業拠点網を最大限に活用。

社会インフラ分野で活用される特殊車両や各種機器については、引き続き堅調に推移しているものの、トラックシャーシの出荷遅延や架装工程を伴う車両の長納期化により、一部の受注

# 特選銘柄

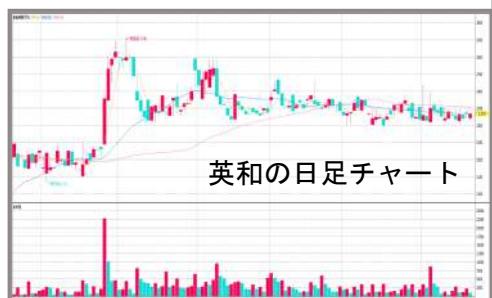
**特殊車両は堅調持続**

に遅れが生じている。販売面では、主に化学業界、鉄鋼業界での定期修理に伴うリプレイス需要や生産性向上を目的とするデジタル技術を活用した投資需要を取込んだ他、生産設備の高稼働状況を背景に造船業界向けの販売が増加し、26年3月期は第2四半期累計（4～9月）で連結売上高212億1700万円（前年同期比5.1%増）、営業利益11億4000万円（同4.9%増）と增收増益で着地した。

**など伸びる  
益予想は不变**

通期は連結売上高485億円（前期

比2.9%増)、営業利益28億6000万円(同2.6%増)の従来予想を変えていない。



## AI半導体関連値崩す

# エヌビディア株が時間外下落

ソフトバンクグループ（9月8日）は、I・半導体関連が値を崩した。19日に決算発表を控えるエヌビディアが夜間取引でも値を崩して、リスク

アップロコン上方修正  
銘柄が総じて安い。

免疫生營業益  
2.1倍評価

研究所(4570)が7連騰。13日に発表した26年3月期の第2四半期累計決算で連結営業利益で前年同期比2・1倍の1億4200万円と大幅増益で着地しており、業績面での評価から上値追いとなつた。ラミニンとE8の販売

やネオシルクR-ヒ  
ト型コラーゲンIの  
販売が増加している。  
**abc自己株取得拡大**

ニチコン大幅継伸（69年6月）が大幅継伸。第2四半期は減収減益だが、決算説明会で、コンデックスEV用フイルム、コントラクト方式にて、下期に拡大、メガバッテリーパックも販売開始する見込みだ。家庭用蓄電池も拡大する見通しで、ニチコン（69年6月）が大幅継伸。第2四半期は減収減益だが、決算説明会で、コンデックスEV用フイルム、コントラクト方式にて、下期に拡大、メガバッテリーパックも販売開始する見通しだ。

(5659)  
日本精線

# 半導体関連業界向け回復 水素回収技術実用化へ取組み進む

日本精線（5659）はステンレス鋼線のトップメーカーで、ナスロン（金属繊維）などの高機能製品や高合金ワイヤなどの独自製品を供給している。

26年3月期については第2四半期累計(4～9月)で連結売上高は224億7800万円(前年同期比3.8%減)、経常利益12億4200万円(同46.9%減)、純利益9億200万円(同43.9%減)と減収減益となったが、これはステンレス鋼線において中国での太陽光パネルの在庫調整の影響を受けていることなどが影響しているためで期初から想定している内容。

金属繊維（ナスロン）については、半導体関連業界向け超精密ガスフィルター（N A S C l e a n）は回復傾向となっており、ナスロンフィルターの開発・販売を強化する方針だ。

# 特選銘柄

増加となり、通期は売上高435億円(前期比7.0%減)、経常利益32億円(同30.2%減)、純利益23億円(同29.2%減)と米国の関税政策による影響をも考慮し、期初予想からは変更はない。

超精密ガスフィルター（NAScl e a n）については増産に向けた基盤整備を進めるなど、高機能・独自製品の拡販への取り組みを進めている。一方、水素回収技術の実用化に向けて回収水素の枚方工場内での利用を開始しており、次世代エネルギー分野での取り組みも注目されよう。



エヌビデオの決算発表を控えてA I・半導体関連が物色し難い状況の中、国内流通大手の同社株がディフェンシブ的な感覚から物色された。物価高の中ではP Bに強みを有しており、今後も優位性が指摘されており、26年2月期も連結営業利益2700万円（前期と2ケタ増益を最高値を更新した。）が大幅反発、19日、イオン（819267）が大幅反発、

# 損保大手明暗分ける

**Amazonストップ高**

東電HD秘密文書管理不備  
東京電力ホールディングス（9501）  
が急落。「東京電力が  
再稼働をめざす柏崎  
刈羽原発で今年6月、  
テロ対策に関わる秘  
密文書の管理不備が  
複数見つかっていた」  
と伝わったことが嫌  
気された。「担当社員  
がテロ対策に関わる  
秘密文書を必要な手  
続きをとらずに持ち  
出しこそ、自分の  
机に保管するなどし  
ていた」としている。

9月期の決算説明会で、今後の成長戦略としてマンガBANGLAの読書数とアクティブラート改善施策を実施し、アプリ内決済の取り組みなどを表明しており、今後成長が感心を集めようだ。

## イオン反発し最高値

# ～ 決 算 情 報 ～

新田ゼラチン

# 意欲的長期經營目標作成

今3月期上方修正で配当引上げ

新田ゼラチン（4977）は26年3月期の通期予想を連結売上高で400億円（前期比3.2%増）、営業利益で40億円（同1.8%増）を据え置いたが、純利益では21億円から31億円（同1.9%減）へ上方修正、配当は中間で12円（前年同期9円）とし、期末配当を12円から18円（同16円）へ引き上げた。法人税等調整額を計上したことなどが影響している。

収益性改善や生産性向上などで中期経営計画目標を前倒しで達成する見通しとなったことを受け、中期経営計画の目標最終年度について営業利益を従来予想の35億円から45億円へ引き上げた。同時に33年3月期を最終年度とする長期経営目標を新たに作成、売上高800億円、営業利益100億円を目指す



算を発表したこと  
で夜間取引で上昇、こ  
れを受けてアドバン  
テスト（6857）  
やキオクシアホール  
ディングス（285）  
A）、レーザーテック  
（6920）など

## AI半導体軒並み急伸

## エヌビディア好決算で買い戻し

ソフトライングル（9）  
20日  
Aをはじめ導体関連半導体・伸長が軒並み。9月1日にエヌディ市場デバイスが予想される。

み安。米国市場で好決算を発表したエヌビデイアが朝高のあと失速、下落に転じ、A I関連の過熱感を払しょくできずハイテク株が総崩れ、S O×指数が5%近い下落で取引を終えた流れを受け、関連銘柄に戻り売り圧力が強まった。キオクシーアホールディングス（285A）はN D型フラッシュメモリの共同開発と設備投資で協業する米

1・34%)、15  
0億円で取得期間は  
11月21日～26  
年2月10日。適切  
な株価水準を下回つ  
ていると考えた。

サンリオ自社株買い

サンディスクが20%を超える急落になつたことできつい下げになつた

AI半導体戻り売り圧力

リスク回避で値を崩していった銘柄に買戻しが加速した。ただ、朝高のあとは戻り売りに伸び悩む銘柄が目立つた。

## ～決算情報～

ステムセル研究所

### 2Qも売上高は過去最高 26年3月期末から株主優待導入

ステムセル研究所（7096）の26年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高14億5000万円、営業利益1億3000万円になった。連結決算移行で前年同期との比較はないが、単体ベースではWEB広告最適化や産婦人科施設との連携強化で保管検体数が増え、売上高は引き続き四半期として過去最高を更新。ただ、シンガポール事業立ち上げへの先行投資や広告宣伝費、人件費などコスト負担が収益を圧迫、前年同期に株式売却益を計上していたことから大幅減益になった。

連結による影響は軽微で、通期は売上高30億円、営業利益4億5000万円と直近の個別予想と同額としている。また、26年3月末から1単元（100株）以上を保有する株主にデジタルギフト3000円分を贈呈する株主優待制度を導入する。

日本トリム

### 2Qは過去最高の売上高 整水器販路開拓進み電解水透析も貢献

日本トリム（6788）の26年3月期第2四半期累計の連結決算は、売上高124億600万円（前年同期比9.0%増）、営業利益15億6300万円（同15.8%減）、最終利益11億600万円（同15.2%減）で着地した。

先行投資などによる費用負担が収益を圧迫したが、整水器販売はスポーツや美容分野の販路開拓が進み、インドネシアのボトルウォーターや電解水透析、子会社のステムセル研究所の再生医療関連事業も貢献、代理店を通じた間接販売も回復しており、売上高は中間期として過去最高を更新した。

通期は売上高250億円（前期比11.3%増）、営業利益35億4000万円（同7.7%増）、最終利益23億円（同2.6%増）と従来予想を据え置いた。

大森屋

### 3億7100万円の営業黒字 家庭用海苔収益改善し新製品に注力

大森屋（2917）の今26年9月期は連結売上高180億円（前期比9.0%増）、営業利益3億7100万円（前期6600万円の赤字）、純利益1億9600万円（同7300万円の赤字）と黒字転換する見込み。

25年9月期は営業損益で当初計画の6500万円黒字に対して6600万円の赤字となつたが、これは主要原材料の原料海苔価格高騰によるコスト増および経費増によるもので、仕入価格は上昇し、電力料や燃料費、物流費も高騰したことから製造コストが増加しているようだ。一方、価格改定を行つことにより、家庭用海苔の収益が改善しており、今後は生産活動の効率化やコスト削減を強力に推し進め、「バリバリ職人」や「サクサク職人」に続く新製品の開発に注力して利益浮上に取り組んでいく。

大和ハウス工業

### 通期上方修正で配当引上げ 米国子会社で大型土地売却取引

大和ハウス工業（1925）は26年3月期通期の連結業績予想について、売上高は5兆6000億円（前期比3.0%増）を据え置いたが、営業利益を4700億円から5100億円（同6.6%減）へ上方修正、期末配当を95円から100円に引き上げ、年間配当を175円（前期150円）とした。

米国子会社で大型の土地売却取引があり、各セグメントの不動産売却スケジュールを見直したこと、利益が前回予想を上回る。配当性向35%以上とし業績に連動した還元を行う方針に沿って配当を引き上げた。

子会社化する住友電設との協業について「まずは半導体やデータセンターなどの分野でシナジーを引き出す方針で、研究開発、企画の段階から連携していく」（大友浩嗣社長）としている。

## ～決算情報～

**新コスモス電機**

### 2Q19%営業増益達成

ガス警報機と検知警報器など好調

新コスモス電機（6824）の26年3月期の第2四半期（4～9月）は連結売上高246億3400万円（前年同期比21.9%増）、営業利益40億1800万円（同19.2%増）、純利益27億1600万円（同33.6%増）となった。

家庭用ガス警報器関連では北米向けの電池式メタン警報器と警報器用ガスセンサが引き続き好調に推移。工業用定置式ガス検知警報器関連では半導体業界向けガス検知警報器が低調に推移したものの、電力業界向けや化学業界向けガス検知警報器やメンテナンスサービスは好調に推移した。

通期は売上高480億円（前期比13.9%増）、営業利益56億円（同8.6%増）、純利益34億5000万円（同2.2%増）の従来予想を据え置いた。

**eWeLL**

### 第3四半期45%営業増益

BPaaSけん引し10%超の単価成長

eWeLL（5038）の25年12月期の第3四半期累計（1～9月）決算は売上高で24億7300万円（前年同期比33.0%増）、営業利益で11億9500万円（同45.2%増）と大幅な增收増益となった。

すべてのサービスにおいて単価が上昇し、引き続き前年同期比10%超の単価成長を実現。特にA.I訪問看護計画・報告とBPaaSが単価成長をけん引している。

営業利益ベースで進捗率は80%ながら、通期は売上高33億4900万円（前期比30.3%増）、営業利益14億9400万円（同31.6%増）と従来予想を据え置いた。

これは「第4四半期で採用や研究開発などの投資を積極させる」（中野剛人社長）ため、攻めの経営から来期に向けてその効果が期待される。

**クオルテック**

### 第1四半期営業益2.3倍

微細加工伸び信頼性評価も堅調

クオルテック（9165）の26年6月期第1四半期の単体決算は、売上高9億8000万円（前年同期比9.0%増）、営業利益8200万円（同2.3倍）、最終利益5600万円（同2.8倍）と增收で利益が大幅に拡大した。レーザ加工の量産案件シフトと表面処理技術の受注キャパシティ増強により、微細加工事業が35%増と大幅に伸長、自動車電動化や消費電力削減ニーズを背景に主力の信頼性評価事業も堅調で、拡販体制強化や次世代半導体を中心とした研究開発など先行投資負担を增收効果で吸収した。

通期は米関税の影響を考慮して、売上高44億円（前期比9.3%増）、営業利益4億5000万円（同5.4%増）、最終利益2億7100万円（同23.4%増）と期初予想を据え置いた。期末一括配当は37円を継続。

**DmMiX**

### 今12月期通期上方修正

業務受託順調で47%営業増益へ

ダイレクトマーケティングミックス（7354）は25年12月期通期の連結業績予想について、売上収益を220億円から225億円（前期比7.4%増）、営業利益を18億円から21億円（同46.5%増）、最終利益を11億円から12億7500万円（同52.8%増）へ上方修正した。

マーケティング事業で既存顧客や新規クライアント向け業務受託が順調に推移、第3四半期累計の連結決算が売上収益170億230万円（前年同期比8.3%増）、営業利益16億7300万円（同41.9%増）、最終利益10億3500万円（同71.5%増）と增收大幅増益で着地したことに加え、固定費見直しにより収益性が改善しする。

期末一括配当は7円（前期4円50銭）に増配の予定。

潮流

# 成長なくして財政再建なし

## 制約から解き放たれた日本経済



これまで日本財政はプライマリーバランス(PB)黒字化という目標に縛られ

れ、景気が低迷しても大胆な支出をためらう傾向が強かった。しかし、世界的にはアメリカも欧州もコロナ禍以降に財政出動を拡大し、成長を優先する政策に転換している。高市首相はこの流れを踏まえ、「日本も成長なくして財政再建なし」と明確に方向転換した。従来の「プライマリーバランス黒字化目標」に縛られた財政運営から一歩踏み出し、複数年度での評価へと方針転換を図った。

これは単年度の財政赤字を問題視せず、将来的な成長によって財政の健全性を確保するという発想だ。この変化は、経済政策の枠組みそのものを大きく変える可能性を持つ。財政の「縛り」が緩むことで、景気刺激のための大型投資や補助金、減税政策を柔軟に展開できる。中長期的に成長と税収増でバランスを取るという柔軟な考え方だ。この仕組みが本格的に機能すれば、日本は久しぶりに“攻めの財政”を展開できる国となる。

高市政権の政策発表をきっかけに、防衛・宇

宙関連、A I・半導体関連、電力・エネルギー・インフラ関連、地方再生・インフラDX関連株が上昇している。これらは単なるテーマ株ではなく、政府の長期戦略と直結する「国家成長銘柄」といえる。

高市首相は

「日本の潜在成長率を高める投資は支出ではなく、未来への先行投資」と繰り返し強調している。この発言に呼応するように、企業の設備投資や賃上げの動きも広がり始めており、実体経済と株式市場の双方で上向きの循環が形成されつつある。

短期的な株価上昇に留まらず、財政政策と産業政策が車の両輪となる「構造的上昇相場」が期待される。日本は“財政発の景気拡大局面”に突入しようとしている。高市政権は経済のポテンシャルを信じ、未来への投資を惜しまないという点で、戦後日本の経済史における転換点となるかもしれない。日本経済は長らくデフレと停滞に悩まされてきたが、ここにきて「財政主導のリフレ相場」が再び視界に入ってきた。

潮流銘柄はメディシノバ・インク(4875)、国際計測器(7722)、日立製作所(6501)。

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ボストン、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行なう。

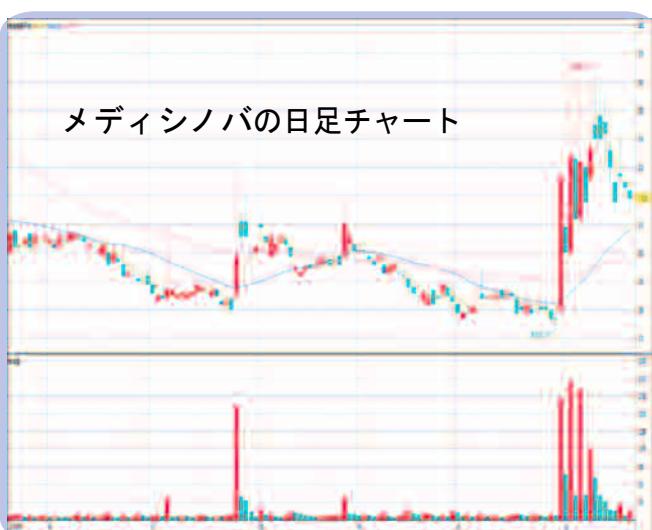


岡山憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

**支出ではなく先行投資**

メディシノバの日足チャート





## 敏腕先物ディーラー

# ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール  
証券アドバイス

証券アナリス  
トから証券会社

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



エヌビディアは好決算だったが…



当面は上値の重い展開となる。日経平均のチャートでは11月4日の高値(5万2636円)を起点とした

抜けてくると▼30(4万7424円処)まで仕掛けてくる可能性もあるため注意したい。今週は日本が月曜日が休場で米国が27日に感謝祭で休場になる。方向感に乏しい動きになると思われるが、弱材料に敏感になつてきてるので「突っ込み買いの戻り売り」に徹したい。

今週のレンジは4万7500円～5万円を想定する。

(ハチロク)

先週の日経平均株価は前週末比約1750円安と大幅下落、2週ぶりに反落、週足では3週連続陰線となつた。先週はエヌビディアの決算に振り回される形となつた。

米国市場の取引時間外に好決算が発表された為

日本市場でA I関連株が急騰した。一時は約2000円高まで上昇したが、米国でのエヌビディアの取引が不発に終わると翌日には一転して約1600円安まで売られるなどジエットコースターのような展開であつた。

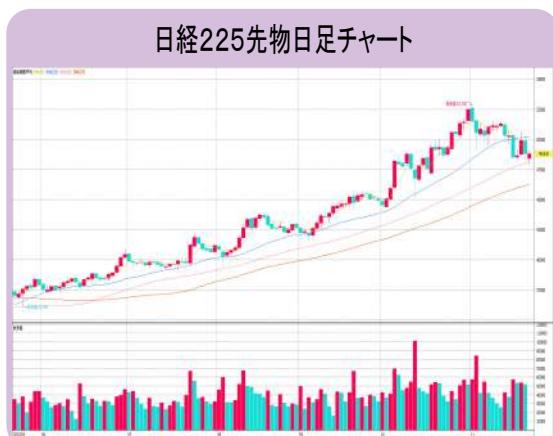
金曜日の日経平均は約12

過去最高益を発表したエヌビディア株が軟調に推移したことを考えると、A I 関連株は一旦は調整局面を迎えているというよう。海外投資家も A I 関連株から内需株や中小型株にシフトしているようで、今後は T O P I X型優位の展開となるう。だが、チャートでは T O P I Xで「アイルンドリバーサル」を形成しており、底を打つには下値で「アイルンドリバル」を形成するか、長

右肩下がりの抵抗ラインで上値を抑えられている。現在は5万0350円処で25日移動平均線(5万0098円処)と近い位置にある。

エヌ・ビ・ディ・アイア 株  
に翻弄される  
当面は上値重い展開

ンテストの3銘柄で約1300円ほど日経平均を引き下げており、如何に影響力が強いかわかる。同日、TOPIXは8割近くの銘柄が上昇しており、日経平均だけを見ていると全体の相場観を見誤るので注意した。



スダツクは2・15%の急落となり、週末21日は再び4万9000円を大きく割り込む動きになつた。米国では9月の雇用統計が予想以上に増加したことを受けたことからFRB高官がインフレの高止ま

## 記者の視点

# 相場見通し

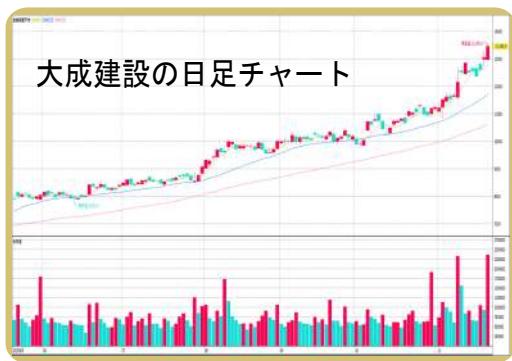
## 資金は内需優良シフト

イオ、や大手ゼネコンは強い

記者の視  
相場

の東京市場はエヌビディアの決算で乱高下する動きとなつた。

日本時間の20日7時前に発表されたエヌビディアの決算が市場予想を上回る内容だったことを受けて、20日の前場には5万263円87銭まで駆け上がる場面があつたが、その後は戻りに売りに押された。その後のニューヨーク市場も主要3指数が大幅高でスタートしたが、その後は急速



## 当面のスケジュール

- ・ 24日 休場：東京市場 振替休日
  - ・ 25日 10月全国百貨店売上高
  - ・ 26日 10月企業向けサービス価格指数  
米10月個人所得・個人支出・デフレーター
  - ・ 28日 10月失業率・有効求人倍率  
11月東京都区部消費者物価  
10月商業動態統計  
10月鉱工業生産  
ブラックフライデー(年末セール開始)
  - ・ 30日 中国11月製造業PMI、中国11月非製造業PMI、中国11月コンポジットPMI
  - ・ 1日 7-9月期法人企業統計  
中国11月Ratingdog製造業PMI  
米11月ISM製造業景況指数
  - ・ 2日 11月マネタリーベース  
11月消費動向調査
  - ・ 3日 米11月ADP雇用統計  
米11月ISM非製造業景況指数
  - ・ 4日 米10月貿易収支
  - ・ 5日 10月家計調査  
10月景気動向指數  
米11月雇用統計

# 需優良シフトや大手ゼネコンは強い

母が亡くなつた。点滴だけで命を長らえている状況が2カ月近く続いていたので、連絡があつて5分とかからず病室に駆け付けたが、すでに息はなかつた。ただ、身体はまだ温かく、表情は穏やかで苦しんだ様子がなかつたことには安心した。父が亡くなつたは10年前、その頃は思いもしなかつたが、今は自身が終わる時までどう生きていくかを具体的に考えるようになつた。

まずは健康第一、できるだけ長く楽しんで仕事をしながら、多少なりとも貯えも残さなくてはならないだろう。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。